

糖尿病治療の最前線

適切な治療法はひとつとは限らない

80歳でインスリン治療を決意したMさんのケース



担当医 久保 明
 医学博士・
 糖尿病内分泌専門医
 東海大学医学部教授
 高輪メディカルクリニック院長

患者氏名	M・Y様	年齢	80歳	性別	女性	現病歴	糖尿病、 <small>ぜん ぞうしよくせい</small> 前増殖性網膜症、肺炎
------	------	----	-----	----	----	-----	---

80歳になるMさんは、糖尿病を患って10数年。眼科で前増殖性網膜症と診断されてはじめて、糖尿病の存在に気づき、当クリニックへ通院されるようになりました。

Mさんは、「何とか糖尿病を治したい」との思いがしつかりとある方です。ゆえにずっと飲み薬で治療をしております。今のところ腎症の合併もありません。ですが、血糖値248 mg/dl、ヘモグロビンA1c 9.5%と数値はあまりよくないので、インスリン治療もおすすめしたのですが、拒まれました。

ある日、体がだるいとおっしゃるのでCT検査をしたところ、肺炎にかかっていることがわかりました。糖尿病の方の場合、熱が出にくいいため肺炎に気づかず、こじらせてしまうことも少なくありません。幸いMさんの場合、すぐに肺炎と診断できましたので、すみやかに専門の医療機関へ入院していただきました。

そのとき担当医から、「こういわれたのだそうです。「肺炎を治すには、インスリン治療がいいですよ」と。逆にいえば、血糖値をコントロールできないと免疫力はさらに低下し、症状の改善は難しいというわけです。

この入院がきっかけで、Mさんはインスリン治療の導入を決意。あわせて血糖値の自己測定も始められました。もともと糖尿病を克服したいというお気持ちの強いMさんです。1日4回のインスリン注射で効果的に治療を続けたところ、1年たらずで血糖値は151 mg/dl、ヘモグロビンA1cは7.7%に下がりました。

インスリン治療は、Mさんのように高齢でも自己管理さえできれば導入可能です。血糖値を上手にコントロールするために、さまざまな治療の選択肢があることを、覚えておかれるといいのではないのでしょうか。

※糖尿病性網膜症の進行段階の二つで、単純性網膜症がさらに進行した状態。